



シラバス参照

タイトル「2014年度 教養科目シラバス」、フォルダ「2014年度 教養科目シラバス-2014年度「教養の森」科目群【科目群3】」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	「いのち」と「かたち」のフィロソフィア		
担当教員	天野 雅郎		
対象学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	木 3	単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考	全学部・全学年		
科目名 (英語表記)	A Philosophy : Life & its Form		
授業のねらい・概要・科目の位置付け	この授業は、いわゆる「哲学」の授業です。...が、これまで日本の大学（ひいては、世界の大学）で行われてきたような、狭い意味における「哲学」の授業を行なうために、この授業は開講されるものではありません。むしろ、そのような「哲学」を改め、乗り越えるために、この授業は開講されます。そのために、あえて授業名にも「哲学」ではなく、原語（オリジナル）であるギリシア語の「フィロソフィア」（philosophia）を宛がっています。そして、そのような「フィロソフィア」が皆さんにとって、はなはだ身近な存在であり、身近な行為であることを知ってもらおうのが、この授業の目的です。		
授業計画	この授業のキーワードとなるのは、さしあたり「いのち」（漢字で書けば、命）と「かたち」（漢字で書けば、形）という二つの語です。言い換えれば、この二つの日本語（と言うよりも、和語）を使いながら、皆さんは自分自身が「生きている」ことや、あるいは「生きていく」ことや、結果的に、いつか自分自身が「死んでいく」ことを、あれこれ考えることとなります。そして、そのような「考える」ための手間暇（てまひま=労力と時間）を通じて、やがて皆さんは、自分自身が「世界」（world）に対して、ひどく切（せつ）ない、まるで「恋愛」感情のような思いを催さざるをえない事態にまで、立ち至るに違いありません。この授業は、言ってみれば、そのための訓練（トレーニング）の場である、と理解をしてもらえれば、幸いです。		
	回	内容	
	1	序章—フィロソフィア（philosophia）とは？	
	2	「恋する人」のために	
	3	「死する人」のために	
	4	「いのち」のフィロソフィア（春の章）	
	5	「いのち」のフィロソフィア（夏の章）	
	6	「いのち」のフィロソフィア（秋の章）	
	7	「いのち」のフィロソフィア（冬の章）	
	8	讃歌（a song of praise）—「いのち」を超えるもの（たち）へ	
	9	「驚きの心」によせて	
	10	「疑いの心」によせて	
	11	「かたち」のフィロソフィア（生の章）	
	12	「かたち」のフィロソフィア（成の章）	
	13	「かたち」のフィロソフィア（消の章）	
	14	「かたち」のフィロソフィア（滅の章）	
15	讃歌（a song of praise）—「かたち」を超えるもの（たち）へ		

到達目標	哲学（フィロソフィア）とは何か？なぜ人は、それを学ぶ必要があるのか？それを学んで、何の役に立つのか？それどころか、何の役にも立たないのではないかと？このような疑問に答えるために、この授業は行なわれます。
成績評価方法	定期試験（100%）
教科書	使用しません。
参考書	適宜、紹介します。
履修上の注意・メッセージ	哲学（フィロソフィア）が、すべての学問の中で、もっとも古く、もっとも広く、もっとも深く、もっとも「おしゃれ」な学問であることを、それどころか、それは単純に、一人の人間の生き方（ライフ・スタイル）に他ならないことを、知ってもらうための授業です。
授業時間外学習	自主的な学習とは、自分が自分の主人（⇔奴隷）となり、学（まな＝真似）び、習（なら＝慣）うための時間を確保することであり、そのような時間を産み出し、自分に宛がい、楽しむ（！）ことが、そもそも主人（subject＝主体）の資格であり、特権でもあることを、お忘れなく。

